

令和 5 年度 姿川中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育指標(目指す生徒像含む)

- 学ぶ心
- ・ 学習や生活に必要な基礎・基本を身に付け、生涯にわたって自ら学び続ける生徒を育成する。(知性・自主性・生涯学習)
 - ・ 経験や既習事項を基に自ら考え、判断を行い、自分の考えを表現できる生徒を育成する。(思考力・判断力・創造力)
- 豊かな心
- ・ 人間的なつながりを大切にし、郷土や他国の文化を理解するとともに、異なるものや考えを受け入れながら、感謝する心や奉仕する心を持った生徒を育成する。(情操・人権感覚・郷土愛・国際理解)
- 助け合う心
- ・ 自他の生命を尊重するとともに、心身ともにたくましく、実践力のある生徒を育成する。(生命の尊重・健康・気力)
 - ・ 社会規範を遵守し、勤労を尊び、相手の立場を尊重しながら、協力し合う生徒を育成する。(責任・勤労)
- 拓く心
- ・ 様々な社会的変化を乗り越え、自らの夢の実現や社会貢献への志を持つ生徒を育成する。(夢の実現・社会貢献)
 - ・ 多様な人々と協働し、持続可能な社会の創り手となる自覚と責任を持った生徒を育成する。(協働・創造・持続可能な社会)
- 【目指す生徒像】 ○ 夢や目標に向かって意欲的に取り組む生徒 ○ 思いやりのある生徒

2 学校経営の理念(目指す学校像含む)

- グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により急速に変化するこれからの社会を生き抜く生徒一人一人の確かな成長のためには、学習がよく分かる喜び、自分の役割が分かり居がいの喜び、友達や先生と心が通い合う喜びを味わわせること、さらに学んだことをもとに課題を解決する力や創造する力を身につけさせることが大切であると考えます。
- 【目指す学校像】 ○ チーム姿中一丸となって活気にあふれる学校 ○ 地域から信頼される開かれた学校
- 【目指す教師像】 ○ 教育的愛情と使命感を持って生徒と向き合う教師 ○ 人間性豊かで学び続ける教師

3 学校経営の方針(中期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、考え、表現する学び合い活動や焦点化した振り返り活動を取り入れるなど、生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。
- (2) 生徒理解を基盤として、発達の段階に応じた生徒支援や教育相談の充実を図り、望ましい人間関係や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (3) 道徳科を核とし、生徒一人一人の道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や体験活動を一層推進し、生徒の内面に根ざした道徳性や豊かな心の育成に努める。
- (4) 家庭との連携を強化し、健康管理や体力づくり、食に関する指導の充実を図るなど、生徒が将来にわたって健康に生活していく基盤づくりに努める。
- (5) 生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。
- (6) 保護者や関係機関等との連携を図り、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導やインクルーシブ教育の充実に向けた特別支援教育の推進に努める。
- (7) 温かく潤いのある教育環境づくりに努める。
- (8) 学校ホームページを効果的に活用し、積極的な情報発信に努める。家庭や地域社会等との連携を一層深めるとともに、地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- (9) 教育公務員としての服務規律の厳正やコンプライアンスの遵守に努める。
- (10) 同僚性を高め、「ムリ・ムダ・ムラ」をなくし、業務の効率化や勤務時間の適正化を図った働き方を推進することにより、専門職としての資質向上に努める。

[姿川地域学校園教育ビジョン]: 発達の段階に応じた教育活動を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、心豊かな子どもを育てる。 ～9年間の学びを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び学習指導要領の関係法令、県教育行政基本方針、第2次宇都宮市学校教育推進計画等の示すところに従い教育課程を編成する。
- (2) 地域や学校の実態を踏まえ、生徒の心身の発達の段階や特性を十分考慮し、特色ある教育活動動を展開できるよう、社会に開かれた教育課程を編成する。
- (3) (教科等横断的な視点)総合的な学習の時間と特別活動を再構築し、各教科等で得た知識・技能等を実生活や総合的な学習の時間(姿中タイム)や宇都宮学で生かせるよう特別活動やキャリア教育・学校行事等と関連付けながら見直した指導計画で実践する。

5 今年度の重点指標(短期的視点)※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点指標は文頭に○印を付ける。

(1)学校運営 職場は明るく楽しく 仕事は厳しく誠実に(職場の和を大切に)

- ①帰属意識や規範意識を高め、互いが協力し合い、思いやりと居がいのある学級集団を育成する。
- ②生徒の自主的・主体的な活動を助長し、自己肯定感や自己有用感を育てる活動を推進する。
- ③「努力を認める」「達成状況を褒める」「次に向けて励ます」「認めて・褒めて・励まして」の3指導を実践する。
- ④教員の授業力向上に努める。(OJT が機能した授業力向上月間、ICT の効果的な活用等校内研修の充実)
- ⑤これからの時代を生き抜く生徒が、様々な課題と向き合い、見通しをもって考え、他者と協働して解決策を導き出す力や創造する力を育成する取組を推進する。
- ⑥たくましさを涵養する体験活動や心の教育を推進する。(挑戦する・我慢する・あきらめない)
- ⑦基本的な感染症対策を徹底の下、安全に配慮した教育活動を継続し、生徒の健やかな学びの保障に努める。(1人1台端末を積極的に活用した授業の質的向上とオンラインによる学習支援等)
- ⑧ICTやAI型学習ドリル等を効果的に活用し、個別最適な学びや行動的な学びを実現するGIGAスクールを推進する。(Chromebook における協働学習ツール等の積極的な活用等)

令和5年度 学校スローガン(生徒指標) Fly High・挑戦 ～ 一生懸命はカッコいい ～

※令和5年を新たな挑戦・飛躍の年とし、「どんな状況にも負けず高い目標を掲げ、その実現に向け、一生懸命頑張ってほしい、そして、授業や学校行事、部活動などを通して、その頑張る姿こそが、カッコいいと、自他ともに認め合い、学校生活でしか味わうことのできない感動に出会いながら、ともに成長してほしい」という思いを込めて設定しました。

(2)学習指導「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」

- ①学業指導(授業に向かう基本的な学習態度の指導)を徹底する。
- (2分前着席、基本姿勢、「はい」という返事、発表を聞かせる工夫、授業に集中させる工夫等)
- ②ねらいを明確にし、学ぶポイントの把握と見通しを持たせ、また、振り返り活動の徹底により生徒の授業内容の理解促進と自己の変容の自覚を図る取組を実践する。
- 「宇都宮モデル」(はっきり・じっくり・すっきり)の実践
- ③「話し合い活動」「学び合い活動」の工夫や「意図的な発表の場の設定」を通して、多様な考えに触れ、共通点や相違点の整理など、教師が適切にコーディネートする。
- ④数学・英語での習熟度別学習やチーム・ティーチングの充実及びかがやきルームの活用により、一人一人の理解度に合わせ、きめ細かい対応を行う。
- ⑤ICT(生徒の各端末を含む)を効果的に活用し、授業の質的向上を図る。
- ⑥家庭学習の習慣化及びその質の向上を図る取組の継続と学力向上対策を実践する。
- (「自主学習ノート」の活用強化、「授業・家庭学習強化週間」、チャレンジデーの継続)
- ⑦各種学力調査について正答率の分布状況や経年比較等の分析を行い、生徒の学習に係る課題を把握し共通実践を行う。
- ⑧将来を見据え自己の生き方を広げられるキャリア教育・進路指導を実践する。
- (夢や目標をもって学習に臨ませる取組、キャリアパスポートの効果的な活用)

(3)児童生徒指導「互いの良さを認め合い、豊かな人間性、社会性を育む生徒指導の充実」

- ①善悪を判断する力や集団できまり・ルールを遵守する力を身に付けさせる。
- (5分前行動、身だしなみ・けじめのある生活態度の指導、基本的生活習慣の徹底)

- ②道徳科への対応、読書活動、ボランティア活動など生徒一人一人の豊かな心を育む活動を推進する。
 (道徳科の授業の充実、読書時間の確保、自分・人・郷土を大切にする活動の推進)
- ③問題行動の未然防止やいじめゼロを目指した取組を強化する。(「いじめ・悩みアンケート」等を活用した早期発見・早期対応、いじめ根絶集会・生徒会を中心とした未然防止の取組強化)
- ④SNS等の正しい利用法の指導やトラブルの未然防止、スマホ依存等の防止対策を強化する。
 (保護者会におけるスマホ・ケータイ安全教室の継続、三者懇談での保護者への啓発等)
- ⑤新たな不登校を生まない学級経営や指導支援の充実と関係機関との連携強化等により、不登校対策をさらに強化する。(課題の早期発見・早期対応、心の教室・長期欠席者への支援体制整備)
- ⑥人権感覚育成のための取組を充実させる。(人権に係る授業、規範意識や思いやりの心の育成)

(4)健康(体力・保健・食育・安全)「感染予防対策の徹底と健やかな心身を育てる教育の充実」

- ①「平熱で元気なら学校にGO!」を合言葉に、基本的な感染予防対策の徹底に努める。
- ②運動に意欲的に取り組み、体力向上を図る指導の充実に努める。
 (保健体育授業での実践、適正な部活動の推進、昼休み等での運動の励行、体育的行事の充実)
- ③発達の段階に応じた効果的な健康教育・性教育を充実させる。
 (薬物乱用防止、歯磨きの習慣化、性教育サポート事業等)
- ④学校医による講話を行い、睡眠の質の向上を図る。(内科医による「睡眠講話」の実施)
- ⑤食に関する指導の充実と望ましい食習慣を育成する。
 (食事マナーや食の自己管理能力の育成、給食時の放送や委員会による啓発活動等)
- ⑥生徒が自主的に取り組む清掃活動を充実させる。(校内美化意識の高揚と清掃の意欲的な実践)
- ⑦危険予測・回避能力の育成を図る安全教育・防災教育の充実と交通安全指導の充実を図る。
 (登下校における自転車の交通ルール遵守の徹底、交通安全教室の開催)

6 自己評価(評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点指標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員肯定的回答 85%以上	○問題の意図を的確にとらえるための読解力を高める指導 ・ねらいを明確にし、振り返りを確実に行う授業展開の徹底 ○家庭学習の定着を図るための「家庭学習の手引き」や「学習だより」を活用した基礎的・基本的な内容の確実な定着 ○「授業・家庭学習強化週間」の設定 ・自主学習の励行 ・チャレンジデーの実施 ・学習相談室の実施 ・SUGA-1 学習塾の開設	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 88.8% で目標を 3.8%、教職員の肯定回答は 93.0% で目標を 8.0%、どちらも上回った。 【次年度の方針】 ・主体的に考え表現できる学び合いの場を設定し、指導の工夫改善に努める。 ・生徒の考えを引き出し、深める発問や板書を工夫し、生徒が自分の想いや考えを自由に表現できる授業の雰囲気づくりに努める。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 80%以上	○「思いやり」を重点項目とした道徳教育の充実 道徳科を核にした、判断力、心情、実践意欲と態度の育成 ○「マイナス言葉を使わない」の徹底 ・ 地域でのボランティア活動時における高齢者との交流	B	【達成状況】 ・ 生徒の肯定回答は 93.5%で目標を8.5%上回った。保護者の肯定回答は92.9%で目標を12.9%、上回った。 【次年度の方針】 ・ 道徳の授業を通して、「思いやりの心をもって人と接するとともに、人間愛の精神を深めること」を継続して指導していく。 ・ 地域のボランティア活動を通して、感謝やいたわりの心を育んでいく。 ・ 係活動・委員会活動・学校行事等で、役割をきちんと果たし、助け合う心や思いやる心を持った生徒の育成に努める。 ・ 生徒会を中心としたボランティア活動を継続して実践する。
	A3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員肯定的回答 80%以上	・ 発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・ キャリア・パスポートの活用 ・ 部活動を通じた指導 ・ 地域行事やボランティア活動への積極的参加の推奨 ・ 学級目標の掲示(各自の目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。)		【達成状況】 ・ 生徒の肯定回答は 84.9%(昨年度より2.0ポイント下回る↓)で目標を0.1%下回った。教職員の肯定回答は86.0%(昨年度より2.3ポイント上回る↑)で目標を6.0%上回った。 【次年度の方針】 ・ 引き続き、特別活動や総合的な学習の時間・学校行事を通じて3年間を見通したキャリア教育を進めていく。 ・ ボランティア委員会の呼びかけに応じて参加している生徒を中心に、地域で行われる体育祭や運動会・文化祭等の地域行事に参加できるよう、引き続き地域との連携を図る。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 教職員肯定的回答 80%以上	・保健体育の授業での段階的な指導 ・外部講師を活用した健康教育の実践 ・「保健だより」「給食だより」を通した生徒及び保護者への啓発 ・危険予測・回避能力の育成を図る安全教育の充実	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 92.6%で目標を12.6%、教職員の肯定回答は 93.0%で目標を13.0%、どちらも上回った。 ・新体力テストの結果、給食の残菜共に入学後、結果が良好になっている。 ・学校生活では、大きな事故もなく感染予防を心がけ、安全に生活している。 【次年度の方針】 ・引き続き、保健体育の授業や保健指導・給食指導により健康への意識の高揚に努める。 ・毎日の給食時の放送及び、お弁当の日、マナーアップ週間の実施により、食の大切さの意識づけを図る。 ・歯と口の健康週間を始めとする各種保健関係行事に効果的に保健委員を活用し、健康に関する意識を上げていく。 ・健康課題解消に向けて個別指導の充実を図る。
	A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活しようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員肯定的回答 80%以上	・「認めて 褒めて 励まして」の3指導を行い、自己有用感を与える指導・支援の充実		【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 91.4%で目標を6.4%上回った。教職員の肯定回答は 93.0%で目標を13.0%上回った。 【次年度の方針】 ・「認めて 褒めて 励まして」の3指導を行い、自己有用感を与える指導・支援を充実させていく。 ・生徒会「あったかメッセージ」の廊下への掲示を継続していく。
	A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・様々な英語表現を用いた言語活動の場を多く取り入れた英語の授業の実践 ・ALT との積極的な交流の推進 ・ALT との英会話テストの実施	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 76.2%で目標を3.8%下回った。 【次年度の方針】 ・英語で伝え合うことの楽しさを実感するために、様々な英語表現を用いた言語活動の場を多く取り入れた英語の授業を実践する。 ・生徒同士のペア学習や生徒と教師とのインタラクション、ALTとのパフォーマンステスト等多様な方法を用いて、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。 ・廊下に掲示している ALT コーナーの充実を図る。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・総合的な学習の時間の「宇都宮学」で、宇都宮ブランドを紹介する機会を設けるなど郷土への関心を高める。 ・「姿川地区文化財ウォーキング」の実施 ・道徳の授業で、宇都宮の文化・伝統に触れる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 81.8%（昨年度より 5.7 ポイント下回る↓）で目標を 1.8%上回った。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」の実施計画に従い実施し、その内容を PDCA サイクルを用い、見直しを図る。 ・地域協議会の「姿川地区文化財ウォーキング」(12 月)を引き続き実施するとともに参加人数増加に向けた呼びかけを行う。 ・郷土の伝統と文化を大切にする態度を育てる内容項目の道徳の授業で導入や教師の説話等で宇都宮について触れる。 ・「宇都宮学」と関連させ、1年生の総合的な学習の時間で百人一首を扱い、宇都宮の伝統・文化に触れる。
	A8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 教職員肯定的回答 80%以上	・パソコンを活用した調べ学習や学習のまとめ ・姿中・SUGA スクールの推進「誰でもすぐにでも 各教科でも 家庭でも」ツールを効果的に使い学習効果を高めていく。 ・情報機器の基本的操作方法の習得 ・ICT機器(Chromebook)の積極的活用とそのための校内環境の整備	A	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 74.9%で目標を 5.1%下回り、教職員の肯定回答は 90.7%で目標を 10.7%上回った。 【次年度の方針】 ・生徒に端末を文具の一つとして、積極的に活用させるとともに、協働学習や探究的な学習での活用を推進する。 ・授業をはじめ、あらゆる教育活動を通して、タブレット等のよりよい使い方を検討する。 ・チャレンジデーで AI ドリルを活用していく。
	A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・教科や総合的な学習の時間等における問題解決学習 ・新聞記事やニュースの情報から環境問題や災害等の問題を取り上げる。 ・生徒会が中心となったりリサイクル活動の推進。 ・委員会活動時に SDGs との関連を説明。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 75.2%であり、目標を 4.8%下回った。 【次年度の方針】 ・副教材掲載の「宇都宮学」の SDGsを取り上げ、持続可能な開発に関する17の目標に関心をもたせる。 ・新聞記事やニュースなどの情報から、 ・環境問題や災害や事故などを取り上げ、身の回りに起こっている出来事に関心をもたせる。 ・各種委員会での活動が SDGs と関連していることを生徒に伝えていく。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・教育相談部会、特別支援委員会等における情報の共有化と迅速な対応 ・特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の確立(かがやきルーム・心の教室等) ・保護者との合意形成及び連携強化 ・外国籍の保護者を含めた、個に応じた支援の充実(日本語指導等)	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 97.7%であり、目標を 17.7%上回った。 【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする生徒について、必要に応じて「心の教室」等適切な対応ができており、今後も継続していくことで生徒一人一人にとって「居がい」のある学校作りを目指す。 ・教職員の合理的配慮等への意識の向上を図る。
	A11 学校は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・「姿川中学校いじめ防止基本方針」に基づく指導体制の確立 ・月 1 回の「いじめ・悩みアンケート」の実施(早期発見・早期対応) ・いじめ根絶集会やいじめ防止ポスター・標語の作成 ・生徒支援部会を中心とした情報の共有化と迅速な対応 ・いじめを扱った題材や人権に配慮した道徳の授業の充実	A	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 97.1%(昨年度より 0.5 ポイント上回る↑)であり、目標を 7.1%上回った。 ・保護者の肯定回答は 79.5%(昨年度より 6.1 ポイント下回る↓)であり、目標を 0.5%下回った。 【次年度の方針】 ・学級活動や道徳の授業を通して、「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識をもたせる指導をしていく。 ・いじめ根絶集会などの生徒の主体的な活動を支援し、いじめが許されない行為であることへの更なる意識の高揚に努める。 ・引き続き、全教職員の共通理解、情報共有及び行動連携の下、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見、指導支援にチームで取り組んでいく。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す学校の姿	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・認めて、褒めて、励ます指導の実践 ・生徒一人一人にとって「居がい」のある学級づくり ・教育相談部会における情報の共有化と校内支援体制の確立 ・人権に配慮した授業展開 ・家庭との連絡・家庭訪問の実施	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 97.7%（昨年度より0.3ポイント下回る↓）で目標を17.7%上回った。 ・別室登校支援教室「心の教室」の計画的な運営を行ったことにより、教室に登校できない生徒の解消につながった。 【次年度の方針】 ・「認めて・褒めて・励まして」の3指導を継続することで、自己肯定感や自己有用感の育成を図る。 ・生徒・教職員ともに、人権に配慮した言動に努める。 ・家庭との協力関係をより一層強めるために、保護者との電話連絡や家庭訪問をこまめに行う。 ・SC や MS 等のアセスメントを基にした組織的な対応及び市教育センター等の関係機関との連携も強めていく。
	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・あいさつの励行 ・生徒会活動の活性化 ・学校行事等における活躍の場の提供や ・自己有用感の高揚 ・生徒の自己実現に対する教師の適切な支援		【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 96.2%で目標を11.2%、保護者の肯定回答は 83.5%で目標を3.5%、どちらも上回った。 【次年度の方針】 ・今まで以上に生徒主体の活動を活発化させ、生徒が生き生きとした活気あふれる雰囲気をさらに醸成していきたい。 ・生徒が協力しながら意欲的・主体的に活動でき、達成感や自己肯定感を得られるような場を設定しつつ、特別な配慮を必要とする生徒にも「居がい」のある学校を目指す。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す学校の姿	A14 教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・ねらいを明確に、振り返りを確実に行う授業展開の徹底 ・「授業力向上月間」の充実 ・授業公開の実施による指導力の向上 ・習熟度別学習やチーム・ティーチング指導の充実 ・とちぎっ子学力アッププロジェクトに係る事業(学力向上コーディネーター派遣事業)の実施	A	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 94.8% (昨年度と同値である) で目標を 9.8% 上回った。 【次年度の方針】 ・学力向上に向け、毎時間のねらいを明確に提示し、授業の振り返りを行うことにより「分かる授業」の実践を継続する。 ・まとめの時間を確保し、「振り返り」を意識した授業展開を実践する。 ・主体的・対話的で深い学びの視野に立った授業を行うことで、質の高い授業を展開する。 ・教師の授業力向上のための授業力向上月間(一人一授業)等を充実させ、授業力向上に努める。 ・とちぎっ子学力アッププロジェクトに係る事業(学力向上コーディネーター派遣事業)を通じて、一人一人の授業力向上に努める。
	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上	・様々な学校課題に対する全教職員の共通理解を図った上での組織的な対応 ・地域ボランティアを生かした教育活動の充実 ・SC・MS をはじめとする専門性を有する学校スタッフとの連携の強化	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 95.3% (昨年度より 4.7 ポイント下回る↓) で目標を 10.3% 上回った。 【次年度の方針】 ・地域ボランティアを生かして、教育活動を充実させていく。 ・次年度は、今年度以上に、SC や MS をはじめとする専門性を有する学校スタッフとの連携を密にしていきたい。
	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・ミライムの有効活用による業務の効率化、出退勤打刻の適正な管理 ・「部活動基本方針」に基づく効率的な活動、休養日の設定による負担軽減 ・「リフレッシュデー」の定期的な設定を行う。(部活動・会議なし) ・勤務時間(終了時刻16:30)を意識した働き方の推進を行う。 ・「やる気で前進・本気で改革」をスローガンに、働き方改革・業務の改善を図る。(ムリ・ムダ・ムラをなくす)	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 86.0% で目標を 6.0% 上回った。 【次年度の方針】 ・ICTの活用、校務支援ソフトの活用により、無駄を省き、効率よく仕事ができる環境の整備に努める。 ・部活動を含め、地域や保護者の理解と協力を得て、教職員の業務そのものをスリム化していく。 ・業務改善・環境改善のアンケート結果を生かし、教職員が心身ともに健康でいきいきとやりがいをもちながら、本来の業務にしっかり取り組むことのできる校内環境整備に努める。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 教職員肯定的回答 80%以上	○学校園での「授業・家庭学習強化週間」の実施 ○小学校6年生への春休み学習アドバイスの配布 ○基本姿勢の指導・給食の「食事マナーアップ週間」指導の継続 ○あいさつ運動や運動会ボランティア活動 ○学習面においては、課題を洗い出して、各部会の取組の活性化	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 85.0%で目標を 5.0%上回ったが、教職員の肯定回答は 93.0%で目標を 13.0%上回った。 ・あいさつ運動、親子奉仕活動や運動会のボランティア活動など行うことができた。 【次年度の方針】 ・生徒会執行部を中心にした活動を引き続き充実させるとともに、活動全般への参加の呼びかけや情報提供・広報活動等にも力を入れて、小学校や地域との連携を深めながら、より良い関係づくりに努め、高評価を目指していく。
	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 80%以上 地域住民肯定的回答 80%以上	・地域協議会の有効活用 ・PTAや学校支援ボランティアと行う環境美化活動 ・姿川歴史の会主催による「姿川地区文化財ウォーキング」への参加 ・保護者会、三者懇談、オープンスクール等を通じた保護者との連携 ・各種団体主催の出席講座などを活用	B	【達成状況】 ・保護者の肯定回答は 90.3%（昨年度より 0.5 ポイント上回る↑）で目標を 10.3%、地域住民の肯定回答は 100%（昨年度と同値であった）で目標を 20%、どちらも上回った。 ・アフターコロナで、何をどのようにできるのか模索しながら、工夫してできる活動を行ってきた。 【次年度の方針】 ・地域協議会やPTA、学校園との連携を図り、学校・地域双方向の情報交換・人材発掘に努め、ボランティア活動をより活発にし、地域教育力の活用をさらに充実させていく。
	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上 保護者肯定的回答 80%以上	・月1回の安全点検の実施 ・清掃活動による環境美化の推進 ・避難訓練や防災訓練の活性化と安全教育の充実による安全意識の定着を図る。 ・各種業者の施設点検や「依頼書」を活用した修繕箇所への迅速に対応をする。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 97.7%（昨年度より 3.8 ポイント上回る↑）で目標を 17.9%、保護者の肯定回答は 91.0%（昨年度より 2.1 ポイント下回る↓）で目標を 11.0%、どちらも上回った。 【次年度の方針】 ・次年度も施設・設備の定期的な点検と補修・修繕を実施する。 ・清掃活動の充実を図り、協働と衛生環境への意識を高める。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す学校の姿	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上	・姿中・SUGA スクールの推進「誰でも すぐにでも 各教科でも 家庭でも」ツールを効果的に使っていく。 ・ICT機器(Chromebook)を利用した定期的な希望図書の調査 ・「読書週間」の設定 ・〇蔵書の相互貸し出し	A	【達成状況】 ・教職員の肯定回答は 95.3%で目標を5.3%上回った。 ・昨年度より、ICT機器(Chromebook)を活用した授業が増加した。 ・さくら連絡網の活用により欠席連絡等の処理が簡潔になった。 【次年度の方針】 ・教職員が端末を文具の一つとして扱い、授業や業務で積極的に活用していく。 ・図書委員会による希望図書の調査を行うなど、生徒のニーズに合った蔵書の充実と学校園小学校との相互貸出を行う。
	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	○小中合同あいさつ運動の充実 ・「あいさつウィーク」への積極的な参加 ・「先行あいさつ」の励行 ・(教師自らも率先して行う。)	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 97.2%で目標を12.2%上回った。 【次年度の方針】 ・学校教育活動全体を通して、あいさつ・言葉づかいなど基本的生活習慣の一層の充実や定着を目指す。 ・家庭や地域、小中一貫との連携を図り、学校・家庭・地域が一体となり、生徒の基本的生活習慣の向上に努めていく。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	○「時間を守る・2分前着席」等、基本的生活習慣の徹底 ・身だしなみ強化週間の実施 ・集団生活でのきまりを守る実践力の育成 ・(規範意識の向上)	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 97.2%で目標を12.2%上回った。 【次年度の方針】 ・学級委員長によるチャイム2分前着席の呼びかけを励行する。 ・学級活動や道徳の時間など様々な場面を活用して、規範意識の向上を目指していく。 ・時間に余裕を持って5分前行動できるよう働きかけていく。 ・教師自らも率先して行動する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	B3 生徒は、交通ルールを守り、登下校の安全に努めている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員肯定的回答 85%以上	・全職員による月1回の登校指導 ・毎週水曜日の一斉下校時や部活動終了時の下校指導の徹底 ・随時、集会等で全校生徒への注意喚起 ・「自分の命は自分で守る」指導の徹底	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 90.7% (昨年度より 5.2 ポイント上回る↑) で目標を 4.3% 上回り、教職員の肯定回答は 79.1% (昨年度より 4.6% 下回る↓) で目標を 5.9% 下回った。 【次年度の方針】 ・通学路において登校指導をする。地域学校園とも連携を図る。 ・地域からの苦情等を真摯に受け止め、該当する地域の生徒を集め指導する。また、全校生徒に繰り返し注意喚起を行う。また学年集会や学級においても「自分の命は自分で守る。」指導の徹底を図る。 ・保護者、地域住民、学校支援ボランティア、警察等の協力を得ながら、生徒の交通ルールの遵守に向けた啓発活動を行う。
	B4 生徒は、係活動・学校行事・部活動等で、協力し合い意欲的に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員肯定的回答 85%以上	・生徒が自主的・自治的に参加できるよう ・企画・運営の工夫及び支援 ・学校行事等で生徒の活躍の場の提供 ・各委員会や行事の実行委員会、部活動等におけるリーダーの育成	B	【達成状況】 ・生徒の肯定回答は 97.4% (昨年度より 0.8 ポイント上回る↑) で目標を 12.4%、教職員の肯定回答は 97.7% (昨年度より 2.3 ポイント下回る↓) で目標を 12.7%、どちらも上回った。 【次年度の方針】 ・地域や学校の行事等で生徒が活躍できる場を多く設け、生徒の主体的な活動を促し、称賛しながら認める手法を継続的に進めていく。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	B5 生徒は、自主学習ノートを提出し、家庭学習に熱心に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	○ 家庭学習の定着を図るための「家庭学習の手引き」や「学習だより」を活用した基礎的・基本的な内容の確実な定着 ○「授業・家庭学習強化週間」の設定 ・ 自習学習提出率の計算 ・ 自主学習ベストノートの掲示 ○自主学習の励行 ・ 学習計画表の確認 ・ 自主学習ベストノートの表彰	B	【達成状況】 ・ 生徒の肯定回答は 90.2% (昨年度より 1.5 ポイント下回る↓) で目標を 5.2% 上回った。 ・ 学習だよりを定期的に発行し、生徒・保護者に学習に力を入れるよう啓発してきた。 ・ 自主学習ベストノートの表彰を行い、学習に対する意欲を高めた。 【次年度の方針】 ・ 1 日 1 ページ以上の自主学習の定着とともに、家庭学習の時間の確保と学習内容の質の向上について継続的に指導を徹底する。 ・ 学習計画表を作成させ、活用について指導し、提出させるなど確認を行う。 ・ 「学習だより」を定期的に発行し、家庭学習強化週間の実践に向け、保護者への啓発を図る。 ・ 自主学習ベストノートの表彰をする。
	B6 生徒は、朝の読書の時間に進んで読書を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員肯定的回答 85%以上	○「読書週間」を設定し、図書委員によるおすすめの図書の紹介やイベントの実施を通して、読書の啓発を推進する。 ○「図書だより」を活用した生徒・保護者への啓発 ・ 図書委員会の呼びかけによる読書活動の充実		【達成状況】 ・ 生徒の肯定回答は 96.7% (昨年度より 1.3 ポイント上回る↑) で目標を 11.7%、教職員の肯定回答は 95.3% (昨年度より 0.6 ポイント下回る↓) で目標を 10.3%、どちらも上回った。 ・ 図書だよりを定期的に発行し、生徒・保護者に啓発してきた。 【次年度の方針】 ・ おすすめの図書の紹介や生徒が良い本と出会う機会としての諸活動を充実させる。 ・ 司書と連携し、オリエンテーションやブックトークを通して、読書への関心を高める。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点指標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度、評価項目が大きく変更され、前年度と比較できる項目は50項目である。数値指標が設定されている15項目で数値指標を上回った。

【学校運営】

- ・組織的な企画・運営を推進したことで学校経営への参画意識が高まった。
- ・次年度は「やる気で前進 本気で改革」を合言葉に、教職員の担うべき業務に専念できる環境を確保することにより、勤務時間を意識した働き方を推進していく。

○校内研修の充実を図ったことで専門職としての研修の推進と意識改革を進めることができた。

- ・不登校生徒の組織支援体制を確立し、より連携・協力した不登校対策の推進に努めていきたい。

【学習指導】

- ・次年度も主体的・対話的で深い学びの実現に向け(自分の考えを表現し学びを深める学習)を取り入れた授業を目指し、全教職員が授業を公開し、授業力向上全体研修会の実施により授業力の向上に努める。
- ・生徒、教職員による端末の積極的な活用により、GIGA スクール構想の推進に努める。
- ・ICT(chromebook)を活用した授業やチャレンジテストを推進し、効果的な学習方法を研究していく。

○学習の約束や地域学校園の「自主学習ノートの活用」「授業・家庭学習強化週間」の設定により、小中連携して家庭学習の習慣化を図る。各教科における授業のルールなど学習規律を徹底するとともに、今後も落ち着いた態度で学習に取り組めるよう継続的に指導していく。

【児童生徒指導】

- ・生徒会主催による「いじめ根絶集会」の開催や学級での道徳や学活での様々な取組を通して、生徒たちの「いじめは絶対に許されない行為」であるという意識の高揚を図ることができた。

○生徒の規範意識や基本的な生活習慣は身に付いていると考えられるが、今後も継続的な指導を行う。

【健康(保健安全・食育)体力】

- ・環境委員会と地域協議会の活動において、サルビアやパンジーの栽培等「グリーングリーン花いっぱい運動」の実施、学校内の環境づくりに努めることができた。
- ・「交通安全教育指導」は、地域住民の方から指摘の多い、学校の重要指導項目である。昨年度に比べ、学校の安全指導では全対象で数値が上昇したものの、交通ルールの遵守では生徒の肯定回答が5.1ポイント上がった。生徒自身が、交通ルールをしっかりと守り、安全な自転車走行、登下校ができているという意識の高揚が図れるよう、今後も家庭、地域と連携しながら継続的に指導に努めていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類になり、平常を取り戻す中、マスク依存解消に向けた働きかけを行ったが、同感染症及びインフルエンザの流行により、依存解消という状態には至らず、見守りながら継続的な指導が必要と考えられる。

7 学校関係者評価

- ・A2「生徒は、思いやりの心を持っている」、A4「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」は生徒、教職員、保護者、地域住民、すべてが市平均よりも上回っています(もしくは100%で同率)。心優しく、自分の健康・安全を守ることを意識できる生徒の育成、こうした学校経営ができていることが素晴らしいと感じました。
- ・A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」の保護者回答の昨年度との比較は-3.9%、B5「生徒は、自主学習ノートを提出し、家庭学習に熱心に取り組んでいる」の保護者回答の昨年度との比較は-9.7%でした。授業や家庭学習等について保護者はより厳しく見ており、逆に期待も大きいところではないでしょうか。
- ・A8「生徒はデジタル機器や図書等を学習に活用している」は、生徒、教職員、保護者ともに市の平均よりも下回っています。デジタル機器を効果的に活用した授業づくりなどに力を入れてはいかがでしょうか。
- ・生徒の身になり、いろいろと指導して下さることに大変感謝しております。
- ・ミシンボランティアなどをさせていただいておりますが、家庭科だけでなく他教科でもお手伝いできないかと思えます「わからない」と聞くことができず、モジモジしてしまうお子さんもいます。先生の代わりに聞いてあげることができると思うので、検討してください。
- ・地域の方は学校に訪問する機会も少なく、学校内の様子が分からないことも多いのではないのでしょうか。そのような中、毎月発行されている「ハートフル姿中」により、学校生活に前向きに取り組む生徒さんの様子が写真入りで紹介され、地域の人の目に触れることが多くなってきました。
- ・先生方をはじめ編集をされている方は、ご苦労も多いと思いますが今後ともよろしくお願いします。

8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点指標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- あいさつの励行がよりよい人間関係の構築には不可欠であるという意識を高めるとともに、生徒会を中心に、地域内小学校と連携したあいさつ運動を継続する。
- ・これからも生徒と教職員のより良い人間関係を醸成するとともに、学級経営や教育相談を充実させ、「居がいい」のある学級づくり・学校づくりに努める。生徒支援については引き続き「認めて ほめて 励まして」を合言葉に丁寧な支援に努めていく。
- 「自主学习ノート」の活用や「SUGA1 学習塾」(放課後学習支援)の実施、「水曜日はチャレンジデー」(基礎学力向上)の定着、「学習・家庭学習強化週間」については、保護者と連携・協力して指導の充実を図る。また、「学習だより」を通して、家庭学習の意義や効果など家庭への啓発を行うなど、来年度も粘り強い指導を継続していく。
- ・「持続可能な社会」への関心や理解を深めるため、SDGsを意識した教育活動を推進するとともに、教科・領域での指導方法を工夫・研究したり、課題追究に必要な資料の充実に努めたりする。
- ・学習において「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」のテーマの下、知識・技能が効果的に活用、発揮される場面や思考力・判断力・表現力等を高める工夫、ICT を効果的に活用した授業実践に向け、引き続き指導していく。
- 引き続き発達段階に応じた話し方や聞き方における「学習の5つの約束」を掲示し、基本的な学習態度の定着に努める。
- ・不登校傾向や不適応傾向の生徒に対して、引き続き支援体制の強化と関係機関との連携を図っていく。また、「新たな不登校はうまない」を合言葉に未然防止や早期発見・早期対応に努める。
- ・「心の教室」を設置し、教室に入ることのできない生徒に対して、適切支援を行う。
- ・全教職員の共通理解、情報共有及び行動連携の下、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見に努める。特に、いじめ根絶集会における生徒の主体的な活動を支援し、「いじめは絶対に許されない行為」であることを生徒たちの心に訴え続けるなど、繰り返し指導していきたい。
- ・学校支援ボランティアの協力は、学校としても必要不可欠であり、今後も地域学校協働活動推進員と連携し、継続していく方向で進めていく。
- ・保護者、地域住民、学校支援ボランティア、警察等の協力を得ながら、生徒の交通ルールの遵守に向けた啓発活動を行う。
- ・アフターコロナの観点で、保護者や地域の方々が学校行事に数多く来校できるよう工夫し、学習の成果や生活の様子等を学校だよりやホームページ等で積極的に発信していく。学校の指導方針・指導内容等を伝えることで、保護者の理解と協力を得ることができた。来年度も保護者への広報活動に、より一層努めていきたい。